

S 沿革

—設置改廃を中心として—

- 1930
- 1939 九州帝国大学に理学部が設置された。
昭和14年 数学2講座
4月 「代数学及び位相数学」「幾何学」
物理学4講座
「理論物理学」「実験物理学」
「力学及び熱力学に関する応用物理学」
「光学及び電気学に関する応用物理学」
化学3講座
「無機化学」「有機化学」「構造化学」
地質学2講座
「層序学」「岩石学」の各講座が設置された。
理学部に物理学科、化学科、地質学科が開設された。
- 1940
- 1940 物理学5講座「原子物理学」
昭和15年 化学4講座「物理化学」
4月 地質学3講座「鉱物学」
数学3講座「解析学」に増設された。
- 1941 物理学6講座「地球物理学及び気象学」
昭和16年 化学5講座「分析化学」
4月 地質学4講座「古生物学」に増設された。
- 1942 理学部に数学科が開設された。
昭和17年
4月
- 1943 数学4講座
昭和18年 「応用解析学」に増設された。
7月
11月 数学5講座「統計数学」に増設された。
- 1944 化学6講座「生物化学」に増設された。
昭和19年
12月
- 1947 帝国大学令の一部が改正され、帝国大学が
昭和22年 国立総合大学と改められ、九州帝国大学理
10月 学部は九州大学理学部となった。
- 1949 地質学5講座「石炭地質学」に増設された。
昭和24年
1月
4月 理学部に生物学科が開設された。
生物学2講座「動物生理学」「細胞遺伝学」
が設置された。
5月 国立学校設置法が公布され、学校教育法
による国立の大学として新たに九州大学が
設置され、学部は理学部と定められた。

- 1950
- 1950 生物学4講座
昭和25年 「発生生物学」「植物生理学」に増設された。
4月
- 1951 生物学5講座「生態学」に増設された。
昭和26年
4月
- 1953 物理学科の理論物理学は「量子力学」に、
昭和28年 実験物理学は「応用物理学」に、
3月 力学及び熱力学に関する応用物理学は
「統計力学」に、
光学及び電気学に関する応用物理学は
「光学及び電磁気学」にそれぞれ改称された。
- 九州大学に大学院理学研究科が設置された。
4月
8月 国立学校設置法の一部が改正され、理学部
に臨海実験所が設置され、名称を九州大学
理学部附属天草臨海実験所と定められた。
- 1959 物理学7講座「物性論」に増設された。
昭和34年
4月
- 1960
- 1961 理学部に極低温実験室が設置された。
昭和36年
4月
- 1962 数学6講座「計画数学」に増設された。
昭和37年
4月
- 1963 数学7講座「計算数学」に増設された。
昭和38年
4月
- 1964 物理学科の量子力学は「素粒子理論」に、
昭和39年 原子物理学は「原子核反応学」に、
4月 統計力学は「物性理論」に、
物性論は「半導体物理学」に、
光学及び電磁気学は
「低温物理学」にそれぞれ改称された。
- 1965 物理学9講座
昭和40年 「原子核分光学」「大気物理学」
4月 地質学6講座
「非金属鉱床地質学」に増設された。
- 1966 物理学10講座「磁性体物理学」に増設さ
昭和41年 れた。
4月

- 1970
- 1967 物理学11講座「原子核理論」
昭和42年 化学9講座
4月 「有機反応化学」「放射化学」「量子化学」に増設された。
 - 6月 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令が公布されて理学部附属基礎情報学研究施設が設置され、基礎情報学第一部門「情報理論」が開設された。
 - 1968 化学11講座
昭和43年 「高分子化学」「錯塩化学」
4月 生物学7講座
「分子遺伝学」「生体物理化学」に増設された。
 - 1969 化学13講座
昭和44年 「酵素化学」「物性化学」
4月 生物学9講座
「生体高分子学」「代謝生理学」に増設された。
 - 1970 生物学10講座「数理生物学」に増設された。
昭和45年 4月
 - 1971 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令が公布され、理学部附属島原火山観測所が設置された。
昭和46年 4月
 - 1972 理学部附属基礎情報学研究施設に基礎情報学第二部門「情報方式」が増設された。
昭和47年 4月
 - 1974 数学科、代数学及び位相数学、応用解析学の2講座は、拡充改組により「代数学」、「関数解析学」の2講座となり教官定員がそれぞれ振り替えられた。
昭和49年 4月
 - 1975 数学8講座「位相数学」に増設(拡充改組)された。
昭和50年 4月
 - 1976 数学9講座「数理解析学」に増設された。
昭和51年 4月
 - 1977 理学部附属基礎情報学研究施設に基礎情報学第三部門「情報実験」が増設された。
昭和52年 4月
 - 1980 物理学12講座「地震学」に増設された。
昭和55年 4月

- 1990
- 1981 物理学13講座「高層大気力学」に
昭和56年 増設された。
4月
 - 1984 理学部附属島原火山観測所は理学部附属島
昭和59年 原地震火山観測所と名称が変更された。
4月
 - 1990 地質学科は地球惑星科学科と名称が
平成2年 変更された。
4月
 - 1992 物理学科(9講座)、地球惑星科学科
平成4年 (12講座)に改組された。
4月
 - 1993 化学科(12講座)となる。
平成5年 (有機化学基礎研究センター設置に伴うもの)
4月
 - 1994 九州大学教養部が廃止されたこと及び大学
平成6年 院数理学研究科が設置されたことに伴い、
4月 物理学科に量子物理学(大講座)、情報物理学(大講座)、環境物質科学の3講座が、化学科に分子動態化学(大講座)、分子設計化学(大講座)の2講座が、数学科に数学の学科目が、生物学科に細胞機能学(大講座)、生態科学(大講座)の2講座が増設された。なお、生物学科の生態学講座は比較社会文化研究科に振り替えられ、数学科の代数学、幾何学、解析学、関数解析学、位相数学、統計数学、計画数学、計算数学、数理解析学の各講座は数理学研究科に振り替えられた。

■学科の講座数変遷一覧

年月	学科	物理	化学	地惑	数学	生物	計	備考
昭和13.4								学部創設
14.4		4	3	2	2		11	物理、化学、地質の3学科新設
15.4		5	4	3	3		15	
16.4		6	5	4	3		18	
17.4								数学科の新設
18.7		6	5	4	4		19	
18.11		6	5	4	5		20	
19.12		6	6	4	5		21	
24.4		6	6	5	5	2	24	生物学科の新設
25.4		6	6	5	5	4	26	
26.4		6	6	5	5	5	27	
34.4		7	6	5	5	5	28	
36.4								数学科拡充改組
37.4		7	6	5	6	5	29	
38.4		7	6	5	7	5	30	
39.4								物理学科拡充改組
40.4		9	6	6	7	5	33	
41.4		10	6	6	7	5	34	化学科拡充改組
42.4		11	9	6	7	5	38	生物学科拡充改組
43.4		11	11	6	7	7	42	
44.4		11	13	6	7	9	46	
45.4		11	13	6	7	10	47	
49.4								数学科拡充改組
50.4		11	13	6	8	10	48	
51.5		11	13	6	9	10	49	
55.4		12	13	6	9	10	50	
56.4		13	13	6	9	10	51	
平成 4.4		9	13	12	9	10	53	
5.4		9	12	12	9	10	52	
6.6		12	14	12		11	49	

S 沿革

—設置改廃を中心として—

—1996
平成8年
5月

理学部附属基礎情報学研究施設が廃止・転換された。(大学院システム情報科学研究科の設置に伴うもの)

—1998
平成10年
4月

大学院理学研究科の重点化(2-1)により教育研究組織を大学院に移行した。

物理学専攻、化学専攻の2専攻を、3専攻に改組整備された。

■基礎粒子系科学専攻:

粒子宇宙論、粒子物理学、多体系基礎論の3大講座

■分子科学専攻:

有機化学系、物理化学系、生物化学系の3大講座と物質変換化学の1協力講座

■凝縮系科学専攻:

凝縮系基礎論、複雑系科学、量子物性科学、集合系無機化学、集合系分子化学、集合系物理化学の6大講座と物理有機化学の1協力講座

理学部の物理学科に「物理学」、「情報理学」のコースを設け2大学科目、化学科に「化学」の1大学科目が設置された。

—1999
平成11年
4月

大学院理学研究科の重点化(2-2)により教育研究組織を大学院に移行した。

理学研究科の地球惑星科学専攻、生物学専攻の2専攻が、再編成された。

■地球惑星科学専攻:

生物圏進化学、太陽惑星系科学、流体圏科学、物質循環科学、固体地球惑星物理学の5大講座と地震学・火山学の1講座

■生物科学専攻:

動態生物学、情報生物学、分子集団遺伝学、生体物理化学、生体高分子学の5大講座と海洋生物学の1講座

理学部の地球惑星学科に「地球惑星科学」の1大学科目、生物学科に「生物学」の1大学科目が設置された。

数学科に「数学」の1大学科目が設置された。

理学部附属の天草臨海実験所及び、島原地震火山観測所が理学研究科附属に転換された。

2000
—2000
平成12年
4月

全学大学院重点化の完了とともに、「研究院」制度を導入し、大学院の教育研究組織である「研究科」を再編し、大学院の教育組織である「学府」と教官の所属する研究組織である「研究院」が設置された。

「大学院理学府」に5専攻24講座2協力講座を置く

■基礎粒子系科学専攻:

粒子宇宙論、粒子物理学、多体系基礎論の3大講座

■分子科学専攻:

有機化学系、物理化学系、生物化学系の3大講座と物質変換化学の1協力講座

■凝縮系科学専攻:

凝縮系基礎論、複雑系科学、量子物性科学、集合系無機化学、集合系分子化学、集合系物理化学の6大講座と物理有機化学の1協力講座

■地球惑星科学専攻:

生物圏進化学、太陽惑星系科学、流体圏科学、物質循環科学、固体地球惑星物理学の5大講座と地震学・火山学講座

■生物科学専攻:

動態生物学、情報生物学、分子集団遺伝学、生体物理化学、生体高分子学の5大講座と海洋生物学講座

理学研究科附属天草臨海実験所が理学府附属臨海実験所に転換された。

「大学院理学研究院」に4部門22講座を置く

■物理学部門:

粒子宇宙論、粒子物理学、多体系基礎論、凝縮系基礎論、複雑系科学、量子物性科学の6大講座

■化学部門:

無機化学系、分子集合系、集合物性系、有機化学系、分子構造系、生物化学系の6大講座

■地球惑星科学部門:

生物圏進化学、太陽惑星系科学、流体圏科学、物質循環理学、固体地球惑星物理学、地震学・火山学の6大講座

■生物学部門：
動態生物学、情報生物学、統合生物学、海洋生物学の4大講座

理学研究科附属島原地震火山観測所が理学研究科附属地震火山観測研究センターに拡充改組された。

「理学部」は、平成11年度と同様5学科6学
科目を置く

—2003 「大学院理学府」が次のとおり改組された。

平成15年 ■地球惑星科学専攻：

■4月 固体地球惑星科学、太陽惑星系物質科学、流体圏・宇宙圏科学の3大講座、地震学・火山学講座と地球惑星博物学の1協力講座

■生物学専攻：

動態生物学、情報生物学、統合生物学の3大講座と海洋生物学講座(大学院システム生命科学府の設置に伴うもの)

「大学院理学研究院」が次のとおり改組された。

■地球惑星科学部門：

固体地球惑星科学、太陽惑星系物質科学、流体圏・宇宙圏科学の3大講座、地震学・火山学講座

—2004 国立大学法人九州大学となった。

平成16年

■4月 「大学院理学府」が次のとおり改組された。

■凝縮系科学専攻：

物理有機化学講座(協力)を担当する先導物質化学研究所物質化学部門の「理論・計算化学」分野の教員の工学府への移籍に伴い、兼担を縮減

—2008 「大学院理学府」が次のとおり改組された。

平成20年 基礎粒子系科学専攻、分子科学専攻、凝縮系

■4月 科学専攻の3専攻が改編され、物理学専攻と化学専攻となり、生物学専攻はシステム生命科学府に移行した。

3専攻10講座2協力講座を置く

■物理学専攻：

粒子宇宙物理学、凝縮系物理学、多体系物理学、新領域物理学

■化学専攻：

無機・分析化学、物理化学、有機・生物化学、先導物質化学の協力講座

■地球惑星科学専攻：

固体地球惑星科学、太陽惑星系物質科学、流体圏・宇宙圏科学、地球惑星博物学の協力講座

「大学院理学研究院」が次のとおり改組された。

■物理学部門

基礎粒子系物理学、物性物理学の2大講座

■化学部門

無機・分析化学、物理化学、有機・生物化学、複合領域化学の4大講座

理学府附属臨海実験所が理学部附属天草臨海実験所に改組された。

■専攻の講座数変遷一覧

年月	専攻	基礎粒子系	分子科学	凝縮系科学	地球惑星科学	生物学	計	備考
平成10.4		3	3(1)	6(1)	12	12	36(2)	大学院重点化(2-1)
11.4		3	3(1)	6(1)	6	6	24(2)	大学院重点化(2-2)
12.4		3	3(1)	6(1)	6	6	24(2)	学府・研究院制度導入
15.4		3	3(1)	6(1)	4(1)	4	20(3)	地球惑星科学専攻、生物学専攻改組
16.4		3	3(1)	6(1)	4(1)	4	20(3)	国立大学法人化

※()は他部局からの協力講座で外数

■専攻の講座数変遷一覧

年月	専攻	物理学	化学	地球惑星科学	計	備考
平成20.4		4	3(1)	3(1)	10(1)	学府の改組

■部門の講座数変遷一覧

年月	部門	物理学	化学	地球惑星科学	生物学	計	備考
平成12.4		6	6	6	4	22	学府・研究院制度導入
15.4		6	6	4	4	20	地球惑星科学部門改組
16.4		6	6	4	4	20	国立大学法人化
20.4		2	4	4	4	14	物理学部門、化学部門改組